

第5回射水市庁舎跡地等検討委員会会議概要

日時 平成25年2月19日(火)午後2時から

場所 射水市役所大門庁舎301会議室

出席委員 名簿順、敬称略

円満 隆平(金沢工業大学環境・建築学部建築学科教授)

鏡森 定信(小杉地区地域審議会)

盛光 文雄(新湊地区地域審議会)

長谷 能成(大門地区地域審議会)

杉本 繁機(大島地区地域審議会)

竹脇 寛(下地区地域審議会)

牧田 和樹(射水商工会議所会頭)

串田 伸男(射水市商工会会長)

宮城 澄男(社会福祉法人射水市社会福祉協議会会長)

稲垣 三郎(射水市老人クラブ連合会会長)

堀田 紀子(射水市婦人会会長)

山崎 京子(射水市母親クラブ連絡協議会会長)

欠席委員

長尾 治明(富山国際大学現代社会学部経営情報専攻教授)

村井 美和子(射水市PTA連絡協議会副会長)

徳永 勝久(社団法人射水青年会議所直前理事長)

菅本 昇(一般公募)

高田 麻実(一般公募)

市当局(事務局)

三川 俊彦(市長政策室長)

明神 栄(市長政策室次長)

一松 教進(政策推進課長)

松長 保(庁舎統合準備班長)

大森 昌祐(政策推進課主任)

角波 義彰(政策推進課主任)

坂井 春良(人事課行革推進係長)

安念 孝浩(財政課主任)

1 委員長あいさつ

(委員長)

これまでの会議で新湊、下、大門庁舎について議論していただいた。本日は、残る小杉庁舎について議論をお願いしたい。

前回同様、議論を終えた地域についてもご意見があれば随時いただきたい。特に、本日は大門庁舎を会場としており、改めて気づいた点等があればご発言いただきたい。

(司会)

既に各委員に送付した第4回会議概要について、一部訂正等の申出があったので訂正を反映したものを本日お配りしているのご確認いただきたい。その他に訂正等がなければ、近日中に市ホームページで公開することとしたいがよろしいか。

(委員)

異議なし。

2 第4回会議のまとめ

(事務局)

第4回会議のまとめについて確認

本日欠席の委員から小杉、大門、下庁舎跡地の利活用に関してご意見をいただいたので、お手元に配布している。ご意見の一部を紹介する。

ご意見は、射水市として地域のアイデンティティを明確にし、地域全体の利益に資するよう広域的な観点から提案されている。

「新湊地域を中心にした『経済・産業エリア』の確立、下地域を中心にした『農水・環境エリア』の確立、大門地域を中心にした『暮らしと健康・福祉エリア』の確立、小杉地域を中心にした『文化・スポーツ・教育エリア』の確立、大島地域を中心にした『行政サービスエリア』の確立」といった提案があった。

(委員長)

ただいま事務局から報告があったがご意見、ご質問等はあるか。

(委員)

前回の議論の中で、福祉の拠点づくりに関する意見が出て、今後どういう計画で整備されていくのか考えがあれば示したらどうかという意見があったかと思うが。

(委員長)

私の記憶では、市として福祉に関する上位計画があるのかどうか。あるとすれば、大門庁舎がどういう位置付けになるのか、という趣旨の発言をしたと思っている。

(事務局)

前回の会議では、委員から高齢者向け住宅の整備状況について、市で決まったものがあれば資料を出してほしいという話だったかと思う。担当課に問い合わせたところ、市では整備計画はないということであった。参考に県内の一覧を取り寄せたが、現時点では本会議の参考になるものではないと判断し、資料提出は見送らせていただいた。

(委員)

介護保険事業計画が第5期まできているが、在宅介護を中心に進めていくとしている。今年、5か所目の包括支援センターを整備し、射水市では今後5か所の包括支援センターで在宅介護を支援していこうという計画になっている。国がサービス付高齢者向け住宅を60万戸整備する計画なので、富山県では6千戸という計算になる。富山市が仮に半分の3千戸として計算をしていくと、射水市では包括支援センター1か所あたり100～200戸ということになる。

現在どういう計画かというのは、行政上、数字は出せない。県が行っているので、射水市としては数字がつかめないので発表できない。実際には、動きは出ているし、そのうち明らかになってくると思う。

上位計画という話があったが、たとえば小杉社会福祉会館が老朽化しているが、どうするかという話はない。新湊交流会館や堀岡福祉センターといった施設もあるが、それらをどうしていくか、どこを拠点にしていくかという上位計画はないので、この委員会では自由に意見が言える状況にある、ということである。

(委員長)

同様のことが他のエリアにも言えることで、市全体としてどうするのかという話の中で、各地域にどんな特色を持たせるのかということが必要かと思う。事務局側から資料を出すことがなかなか難しい部分もあるので、この場を利用して、各委員からアイデアとして提言していただくことも意義あることかと思う。

先ほど紹介のあった欠席委員からの提案はよくできていると思う。大変参考になると思うが、そのとおりだと感じる部分もあるし、もう少し検討が必要ではないかと感じる部分もある。たとえば、「ICTスマートシティ構想」とある。スマートシティ構想という言葉は震災後流行っている言葉だが、人によって解釈が異なるのではない

か。この委員会で自分が思うICTスマートシティ構想というのはこういうものだというご意見をいただいても良い。

省エネルギーや環境にしても理想どおり機能すれば素晴らしいが、計画どおりに省エネ効果が得られないなどなかなかうまくいっていないというのが実態であろうと個人的には思う。

この場は何かを決めるということではないので、ICTスマートシティ構想に限らず、これに捉われずご意見等があればいただきたい。

3 協議項目

小杉庁舎跡地等の利活用の方向性

(事務局)

資料10に基づき説明

(委員長)

市外の者としては、小杉地区といえば、やはり射水市の中心地区というイメージがある。射水市といえば、新湊の魚市場や海王丸公園などがイメージされるが、射水市に来れば小杉地区が中央的な地区ということがわかると思う。

資料にあるとおり、いろいろな公共施設が集中しており、敷地面積も他地区に比べ大きい。小杉庁舎の利活用については、4庁舎の中でも非常に重い役割を果たすものと考えている。

たとえば小杉庁舎隣の中央図書館は市内の図書館の中で一番大きいですが、会議室はあまり利用されていない。会議室にあまりたくさん利用があると図書館利用者の妨げになったりするので、主に市役所の会議に限って利用しているということであった。新庁舎ができればそういう利用もなくなると思うので、図書館の機能充実ということも考えられる。図書館の機能が充実すると、射水市全体の情報センターという機能も果たせるので、小杉庁舎もそれと相乗効果があるような機能が期待されるのではないか。

(委員)

前回の会議の意見にあったかもしれないが、新湊には第一インというホテルがあったり多目的ホールがあるが、旧射水郡のエリアにはそれ相応の規模の会議や懇親会ができる多目的ホールがない。現在、考えられるのはせいぜい大門総合会館で、100人程度が収容できるホールしかない。ぜひ、この地域にそのような目的に使えるものを整備していただきたい。

(委員)

委員長が本委員会とは別に調査されていると思うが、これからは公共施設の統廃合、在り方をしっかり検討していかなければならない。合併特例債の期限が延長されたこともあるので、市の公共施設の在り方、将来何が必要かということをごどこかの場でしっかり検討しなければならない。いろいろな委員会で言いつ放して、各委員会の横のつながりがなく、会議ばかりしていて先に進まないという印象がある。

3つの観点から考えられると思う。一つは、公共施設をいかに廃止、統合するのか。周辺環境、文化・スポーツなど特色あるところに何が必要なのかを考えなければならない。

もう一つは、先ほどの意見にもあったが、小杉社会福祉会館の大集会室の利用率が高い。現在、市内でちょっとしたパーティをやる場合は新湊の第一インで300人程度のパーティができるが、そのほかは大門総合会館の150人くらいだと思う。小杉社会福祉会館の場合には、卓球台を並べているような状況なので、どうあっても必要だと思う。この建物は耐震性能もなく、大集会室は雨漏りをしている。なんとしても急がなければならないという思いを持っている。

もう一つは、小杉駅前の再開発の問題である。最近、少しは動きがあるようだが、小杉駅前には宿泊施設兼500人程度のパーティ会場が必要だと思う。コミュニティバスとの連携も必要だろう。

それらいろいろな角度から考えなければならないと思う。

また、福祉の拠点はどうしても必要である。例えば立山町では五百石の駅前に福祉のコアがある。そこには役場の健康福祉課や保健センター、社会福祉協議会が入るなど保健福祉の機能を集約している。将来の少子高齢化を見据えた福祉の拠点、これは射水市のどこかにも必要だろう。

現在は、大島社会福祉センターに市社会福祉協議会が入っており、一応福祉拠点になっている。新庁舎の建設にあわせ、現在の計画では大島庁舎に産業経済部と都市整備部が入ることになっているが、大島庁舎周辺は駐車場が少ないし、大島社会福祉センターは耐震化になっていないので、新庁舎建設にあわせて考えなければならない問題だと思っている。

大島社会福祉センターや小杉社会福祉会館のこと、さらには医療や介護なども含めた福祉プラザのようなことが必要だと思う。そしてこのことを公共施設の統廃合とあわせて検討するべきである。

(委員長)

今ほどのご発言のとおり、公共施設の統廃合に関する調査を行った。基礎データを収集し、ひとつの方針案のたたき台としての形にはなったところであるが、この庁舎

跡地の有効活用の話と関連するところがあり、直ちに市民の皆さんにお諮りするという段階には至っていない。もう少し、ここでの議論や市民の皆さんのご意見も含めて微修正し、関連地域の皆さんのご意見を伺うということになるのではないかと思います。

小杉社会福祉会館の話があったが、少し整理して考えなければいけない。先ほどの欠席委員の意見にあった大門地域の福祉エリアというのは、主として高齢者を意図したものかと思うが、今ほどの意見の福祉はもう少し広い意味での福祉で多少意味合いが違うのかなと思う。

大きな宴会等ができる場がないということについて、何らかの施設が必要だということご意見は理解できる。宿泊施設とパーティ会場を新たに作る、もしくは既存施設を利用すること案としてはあると思うが、全国の事例を見ても実際に経営を健全に続けるのは非常に困難だと思う。一番良いのは民間がやってくれて、そこにパーティ会場がある、あるいはケータリングで料理を出してくれることだと思うが、富山と高岡の間で難しい部分もあると思う。

小杉駅前については、特に駅周辺の開発計画のようなものは存じていないが、そういうものはないという理解で良いか。

(事務局)

市町村合併前の旧小杉町で、駅前開発の構想案があった。現在も市の課題として、駅前に民間資本を活用した再開発をするような構想がある。これまでにホテルチェーンに打診したが、富山市や高岡市に資本投資はできるが射水市にはなかなか難しいということであった。今後もホテルチェーン以外にも開拓していきたいと考えている。

(委員)

駅周辺の再開発に関しては、小杉地域審議会の重点事項の一つとして挙げている。

(委員)

高齢者の話や大門地区の拠点化という話が出たので、いつもどのようなことを理想として介護保険に関する検討しているか少し紹介したい。市町村合併で射水市となったおかげで市の医師会が広域法人になり、在宅医療が立ち上って若いドクターたちが頑張っている。

これから増えていく高齢者を見落とさないためには、3万人くらいのエリアで計画を立てるということが経験的に分かっているので、射水市では3か所に拠点が必要なことになる。大門に拠点をつくれればそれで良いという話ではない。

家はあるけど、人が住んでいる気配がない。そういう世帯が増えている。誰にも看取られずに亡くなるようなことがないよう、サービス付高齢者住宅というものが生ま

れた。国が土地、経営、改修等の支援をしてくれるサービス付高齢者住宅は、3万人のエリアを念頭に置き、小杉、大門・大島、新湊のどの地区でもこの時期に考えなければいけない。今がちょうどよいタイミングである。下地区は農業に特化していくという意見が出て、それは素晴らしいことだと思うので、小杉地区に含めるという形でも良いと思う。

先ほど宿泊施設の話があったが、100人くらい入らないと経営が難しい。サービス付高齢者住宅もそれに近い形でつくるように国は言っている。100人を超えると今度はコミュニケーションや効率の問題で、分割しなければならないなどの問題も出てくるので、100人くらいが目安になっている。各跡地にもそういうスペースの確保をぜひ考えていただきたい。住み慣れた地域でということも大事なので、医療、介護、教育も含めてお願いしたい。公共としてもそういう案があるのであれば早めに提案して民間を引っ張っていく形でぜひ整備していただきたい。

土地が安く借りられれば、民間が投資する可能性も充分にあると思う。

(委員長)

今ほどの意見は、3万人に1か所くらいはサービス付高齢者住宅が必要であろう。それは市が整備するというのではなく、市は用地を提供するなり、賃貸するなりして支援し、あくまで実施主体は民間を中心に考えるというご意見だと思う。これは要望としてしっかり記録しておきたい。

また、200～300人のパーティができるホール、できれば宿泊施設も兼ねた施設が必要だというご意見も要望として記録しておきたい。

それらの要望を挙げていって、庁舎の転用、建替え、あるいは敷地の一部提供等で要望に応えられるのかどうかを次のステップで検討していけば良いと思う。

(委員)

先ほどの意見と重複する部分があるが、小杉地区には100人規模の宴会や祝賀会ができる会場がない。経営母体がどういう形になるか別として、小杉庁舎の建物を解体するかどうかという議論もあるが、宴会施設があれば良いと思う。

勤労青少年ホーム、保健センター、シルバー人材センター、働く婦人の家といった施設が多くあるが、分散している。庁舎跡地であれば、駐車場も広いので1か所に集まっていれば良いと思う。

また、射水市商工会は4か所に分散しており、できれば大門総合会館くらいの建物が小杉にもあれば良いと感じている。商工会も統合すればどうかという意見もかなりあるので、できれば一つになれば良いと思っている。

(委員長)

前回の議論の中で、大門総合会館については、活用はされているがそれぞれ中途半端なので、大門庁舎とあわせて再編して有効活用できないかというご意見があったと記憶している。

また、小杉地区については、資料にあるとおり公共施設が多く、かつ分散しているのでうまく統廃合して、大門総合会館のようなものを現小杉庁舎につくってはどうかというのが今ほどのご意見だったと思う。

(委員)

小杉庁舎建物について、レイアウト等をまったく変更せず、耐震補強だけすると、どのくらいのコストがかかるか試算したものはあるか。

(事務局)

リニューアル等をいっさい含まないとすれば、約1億9千万円と見込まれる。あくまで建物が倒壊しない程度の補強ということでの試算である。

先ほどのご意見にあったようなコンベンションホールにする場合や各種団体が教養講座等を行う場合には、リニューアルしないと利用できないと考えている。当然、給排水の設備等も改修しないと利活用が難しいので、そうすると10億円近いコストがかかると考えている。

(委員)

跡地をどうしたらよいかということについて、なるべく機会あるごとに市民の意見を聞くようにしているが、その中で出てきた意見として、商業地区でもあるので個人事業者が借りられる事務所、特に今は若い人がなかなか借りられない状況にあるので、庁舎建物を分割して活用すれば、良い事務所スペースになるのではないかという意見があった。

県立大学や福祉短期大学あるいは専門学校等から、「こんなことをやりたいが会場を斡旋してもらえないか」というニーズや雰囲気はないのか。例えば、高岡市では御旅屋通りに富山大学芸術文化学部のカフェを作ったりしている。若い人たちが出入りするというのは、人数が少なくても大変意味のあることだと思う。

(事務局)

昨秋に市長と県立大学、福祉短期大学、高等専門学校、情報ビジネス専門学校の学生との話し合いの場を設けた。その際には、学校間の交流があまりないので、学生が集まれる場所があれば良いという意見があった。市の方としても直ちに場所を提供す

ということとはできないが、たとえばこの跡地の利活用の際に小杉庁舎の建物を残して活用することや、あるいは他の施設の統廃合とあわせてその機能を小杉庁舎に集約することも考えていかなければならないと思っている。

(委員)

ぜひ進めていただきたい。

(委員)

以前から県立大学の先生方は、外国から先生が来られる場合に夜遅くなると食事や宿泊の場所が富山になってしまうので、小杉でもそういう場所がないものかという話を聞く。せっかく射水市に来てもらってもここで美味しいものを食べてもらったりすることができないと言われる。

学生さんたちも小杉には交流の場がなかったり、遊ぶところもあまりなかったり、ちょっと中途半端だと言われる。それで富山市内でアパートを借りて車で通学する学生も多いと聞く。

歌の森運動公園で行事があると、図書館や庁舎の駐車場にたくさんの車が止まる。駐車場が足りずに道路に止まることもある。この跡地の検討では、駐車場の問題も解決できれば良いと思う。

(委員長)

大学との関係で、参考までに申し上げますと、金沢市は金沢大学、金沢美術工芸大学、金沢工業大学とそれぞれ包括連携協定を結んでいる。技術開発やイベント等いろいろな部分で一緒にやっという協定を結んでいる。金沢工業大学については、所在地の野々市市とも包括連携協定を結んでいる。金沢工業大学の中にはバーベキューコーナーがあって、市民に開放している。そういう例からすると、射水市においても県立大学ともう少し踏み込んで一緒に何ができるかということを検討し、連携を密にすることも望まれると思う。

小規模事業者のオフィスの件についてもよく解るので、ひとつのアイデアとして記録しておきたい。インキュベーター機能が加わればもっと良いと思うが、予算が必要なことなので、せめてスペースの確保、最近ではテレワークとってインターネット環境が整っていれば小さいスペースで新規ビジネスが起こせるということもある。

またこのことがICTスマートシティ構想にもつながるかもしれない。

(委員)

公共施設を整理していくときに、使えそうなものを小規模でもそうした形で残して

もらうのも良い。

前回の意見にもあった6次産業ということになると大量生産という話ではなく小さなビジネスになるので、下地区にその拠点を作るとしたら篤農家や障がい者がグループを作るなどしてやっていくことになるのではないかと。

先ほど事務所スペースにしてほしいという意見があったことを紹介したが、それは古い家を改築して頑張っている若手の大工たちの意見だ。そうした建築は、大量生産のパネルを貼っていくのと違って根強い人気がある。そういう視点は射水市全体のインキュベーターになっていく可能性がある。この跡地に限らないが、ぜひ視野に入れていただきたい。

(委員)

小杉地区の課題として、豊かな丘陵地帯のおかげで立派な公園ができ、またその近くに企業が来てくれることになっているが、まだまだ十分に活用されていないところがある。6次産業ということであれば、里山にはいろいろな山野菜もあるので、下地区と小杉地区の連携、例えば跡地に分室のようなものをつくってネットワークを構築していただくと大変ありがたい。

(委員長)

4庁舎どれも重要であるが、それぞれが連携して射水市の発展のための機能を担い合うことも考えていかなければならない。

(委員)

子どもたちの健全育成の部分で考えられることとか、こうしたら良いというものはないか。小杉の方々は子どもたちの環境についてどういうふうに捉えておられるのか、現状の施設で間に合っているのか、意見を聞いてみたい。

(委員)

子どもたちの宿泊学習、特に障がいを持った子どもたちの宿泊場所がない。全国大会も豊かな森があって海があってと言う割には泊まる施設がないので、市単独で大規模な大会を誘致するのは難しいという議論になる。

豊かな自然に触れて楽しませることができ環境があるのに、泊まって楽しませるところがない。なんとかしたいという思いはあるが、維持管理を考えるとなかなか踏み出せない。

(委員)

子育て支援する場所が現状で足りているのかということも含むと思う。子どもたちが放課後利用する児童館や放課後保育といったことが学校で実施されているが学校だけでは足りていない。小杉社会福祉会館がその機能の一部を担っているが、仮に小杉社会福祉会館が使えない状況になった場合には他に施設はない。

(委員)

小杉地区に子育て支援センターは1か所だけなのか。太閤山地区はどうなっているのか。

(委員)

太閤山地区には太閤山保育園内に子育て支援センターがある。

(委員)

人口を増やしていくときには、安心して産み育てられる環境が大事である。住んで良かったと思ってもらえる環境が大事である。

(委員)

金山の丘陵地帯を十分に活用するべきである。せっかく合併したのだから海と里山で交流して滞在できるようにすることが必要である。

金山では地域の人たちが蛍の観察など、子どもたちに自然体験をさせている。地域間交流が大事である。

サイクリングロードや遊歩道などももう少し整備されれば良いと思う。

(委員長)

子育て支援機能のご意見があったが、これも重要なご要望として記録しておきたい。

子育てや弱者対策としての宿泊機能が求められるということで、先ほどの宴会場とあわせた宿泊機能とはまた別のものだと思うので、これも記録に留めておきたい。

これで終わりということではないが、概ねご意見も出たようなので小杉庁舎についてはこのようなところでよろしいか。

(委員長)

これで本委員会が対象としている4庁舎について、一通り議論していただいた。このあと、利活用の方向性をまとめていく段階に移る。

次回会議までに事務局と相談の上、これまでの議論を踏まえたたたき台をお示しし

たい。

本日の議長の役を終えさせていただく。

(司 会)

たたき台となる資料については、委員長と相談の上作成し、次回まで各委員に送付したい。

次回の日程等についても、委員長と調整の上、ご案内させていただく。次回の会場はできれば下庁舎としたい。

これをもって第5回射水市庁舎跡地等検討委員会を終了させていただく。

閉会 午後3時40分